

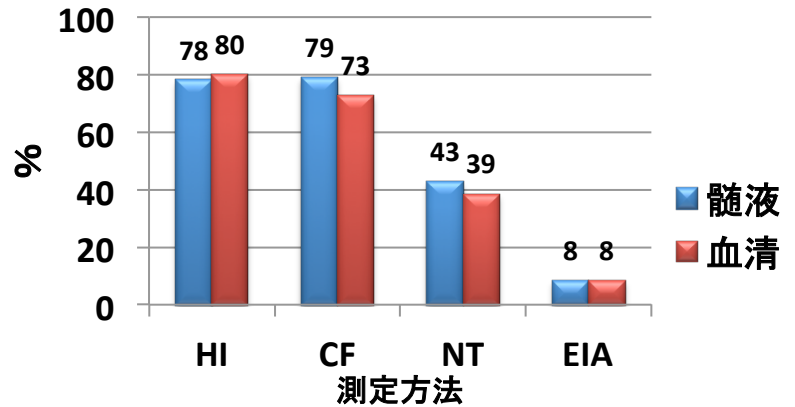
## 亜急性硬化性全脳炎(SSPE)の診療ガイドライン改定のための血清および髄液中麻疹特異抗体価基準値の検討

研究分担者: 福島県立医科大学小児科学講座 細矢光亮

### 対象と方法

「SSPEサーベイランス2007」の個人調査票によるSSPE患者情報118例の内、当該項目未記入例を除いた96例で、診断時の麻疹特異抗体の測定法、抗体価を検討。

### 各麻疹特異抗体測定の実施状況(%)



HI: 赤血球凝集抑制反応  
NT: 中和反応

CF: 補体結合反応  
EIA: 酵素免疫測定

### 診断根拠となった麻疹特異的抗体の最低値

	HI	CF	NT	EIA
髄液	64倍	4倍	16倍	128以上
血清	8倍	128倍	128倍	128以上

最低値は同じ患者による値ではなく、検討SSPE患者情報中の最低値を示した。

## 解説

1. 亜急性硬化性全脳炎(SSPE)は、現行の診療ガイドラインにより、「血清および髄液における麻疹抗体価の高値」をもって診断されてきた。しかし、「高値」の基準は設定されておらず、さらに、麻疹特異抗体価の測定法としてHI、CF、NT、EIA法など様々用いられ、統一されていない。
2. SSPE診療ガイドラインを改定するにあたり、平成26年度は、以前、本研究班で行ったSSPEサーベイランス(サーベイランス2007)の個人調査票を再検討し、SSPEの診断時点における患者の麻疹抗体価を調査した。
3. 1979年から2006年に発症したSSPEは血清HIあるいはCF抗体価で8倍、髄液HIあるいはCF抗体価で4倍以上で診断に至っていた。近年、特異抗体価はEIA法を用いて測定される傾向にあり、EIA法による診断基準を作成する必要がある。